

クスノキ

校長 榮 秀之

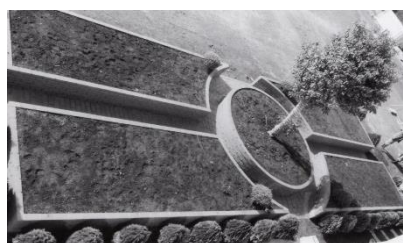


学校のシンボルツリー(クスノキ)

少し前のことですが、低学年の子どもに「花壇にある大きな木の葉っぱがほしい。」と頼まれました。今飼っている蝶々の幼虫がその葉っぱを食べるのだそうです。そう言えば、夏に青い芋虫がその木に登っていく姿を何度か見たことがあります。調べてみると、アオスジアゲハの幼虫はクスノキの葉を好んで食べるということが分かりました。

数日後、幼虫は無事にさなぎになったと教えてくれました。その子にとって、花壇に立つ大木は自分の生活とつながる「意味のあるもの」になったのではないのでしょうか。

この大木“クスノキ”は、ここに校舎が移転されてから地域の方が植えてくださったもので、植樹当時の写真を見ると、まだまだ若い木であったことが分かります。その後、折本小学校のシンボルツリーとして大きく育ち、今では高さが約10m、幹回りが2mほどになりました。



植樹当時のクスノキ

クスノキは、日本で一番巨木になる常緑広葉樹で、かつては樹皮から樟脳(しょうのう)を抽出し、防虫剤として利用していたそうです。アニメ映画「となりのトトロ」の棲み家となっていた巨大樹もこのクスノキで、人々の生活とかかわりの深い樹木

と言えそうです。

右の写真は、運動会の練習風景です。ソーラン節の演技を、6年生が5年生に見せて教えているところです。これは本校で毎年繰り返し行われていることで、先輩から後輩へと引き継がれてきた伝統の一つになっています。このような子どもたちの素敵な姿をクスノキはずっと見守ってきたのかと思うと、感慨深いものがあります。

コロナ禍にありながらも、精一杯力を出し切って最高の運動会を創り上げようとする子どもたちを、クスノキと一緒に応援したいと思いました。

